

「シャインマスカット」で新作菓子 オリジナルスイーツ発表会



花巻産シャインマスカットを使ったオリジナルスイーツ発表会

J Aや花巻市、県などで組織する花巻市農業振興対策本部は10月5日、ブドウ「シャインマスカット」を使ったオリジナルスイーツ発表会を開きました。

同市内の菓子店8店舗のゼリーやタルトなどが並び、公募で集まった10組20人が旬の味覚を味わいました。参加した阿部梨紗さん(26)は「粒が大きく食べ応えがあり、見た目もきれい」と話しました。

「シャインマスカット」は強い甘みとマスカット香があり、種なしで皮ごと食べられる品種。平成30年は同市内で24ha、49人が作付けしました。今後も生産拡大が見込まれています。

介護・糖尿病予防について理解深める 和賀町支店で「JAふれあい健康セミナー」

和賀町支店は10月15日、地域活性化の実現に向けたくらしの活動の一環として「JAふれあい健康セミナー」を同支店(北上市和賀町)で開きました。

組合員や地域住民など24人が参加。小規模多機能ホームえんでの小原千恵子所長から介護サービスと介護施設について聞き、介護サービスの利用手順や種類などについて理解を深めました。JA岩手県厚生連の津川雅恵さんは糖尿病予防について講話したほか、簡単な健康維持体操を紹介。参加者全員で実践しました。

参加した男性は「体操が参考になった。今後の生活に取り入れたい」と話しました。



健康維持体操を実践する参加者たち



稲刈りとジャンボのりまきに挑戦 ちゃぐりんスクール全コース合同で開催

J Aは食農教育事業「ちゃぐりんスクール」を学年別にプログラムを設定して行っています。今年度の第5回目となる10月6日は、1〜6年生までの全コース合同で実施し、参加者全員で出来秋を感じました。

今回のテーマは、色いろの「しょく」と、食べるの「しょく」。5月に1〜2年生とその保護者が「ちゃぐりんスクール体験田」8aに手作業で植えた「ひとめぼれ」の稲刈りを、児童や保護者、スタッフなど、総勢約130人で行いました。児童たちは、J A職員から鎌の使い方や稲の刈り方について説明を受けてから田んぼに入りました。雨後の田んぼだったため、泥だらけになりながら鎌を引き、稲刈りを体験しました。



1 生懸命稲を刈り取る児童
2 女性部に教わりながら具を並べる児童たち
3 完成した23mジャンボのりまき!

ることができました。完成した23mのジャンボのりまきを一齐に持ち上げ、児童たちは驚きと笑顔を見せました。完成後は女性部が作った豚汁と一緒に全員でおいしくいただきました。

児童たちからは「鎌を使って、稲刈りをするのが楽しかった」「ジャンボのりまきは具が飛び出ないように、巻くのが大変だった」という感想が上がりました。



三世代で稲刈り交流 上郷小学校5年生が体験



稲の束ね方を教わる児童

上郷支店は10月15日、遠野市立上郷小学校の5年生16人やJ A職員、地域の農家、児童の祖父母と共に、三世代での稲刈りを行いました。

同日は、5月に菊池正則さんの田んぼ8aに、児童が手作業で植えた「ヒメノモチ」の稲刈りとはせがけを体験。横澤優良さん(11)は「自分で植えた苗がこんなに大きくなってうれしい」と笑顔を見せ、菊池さんは「継続は力なり。これからもほ場を提供し、子どもたちに農業の素晴らしさや大変さを体験させたい」と話しました。

収穫した米は、同校の収穫祭で振る舞うほか、夢産直かみごうで販売体験を11月下旬に行う予定です。

実りの秋到来 大迫保育園がサツマイモ収穫体験



生懸命サツマイモを収穫する園児

花巻市大迫町の鶴尾集落は10月1日、大迫保育園児を招き、サツマイモの収穫や焼き芋作りを行いました。

この活動は、園児との交流で地域の活性化を目指すと同集落が毎年実施しています。同日は20人の年長児たちが畑に入り、土を掘り起こしたり、つるを引っ張ったりして収穫。収穫後は集落の方が用意した焼き芋を味わい、「甘い」「おいしい」とほ場は園児たちの楽しげな声が響きました。

藤館心咲ちゃん(6)は「初めてで楽しかった。自分で掘ったサツマイモを食べるのが楽しみ」と笑顔を見せました。同集落の菊月眞一代表は「台風が心配だったが、無事に収穫体験ができた子どもたちの笑顔が見られてよかった。自分で掘ったものを食べ、少しでも農業に興味をもってくれたら嬉しい」と話しました。